

平成24年度第5回朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成25年2月6日（水）

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

平成24年度 第5回 朝日地域審議会 会議録

- 日 時 : 平成25年2月6日(水) 13時30分から16時10分まで
- 会 場 : 鶴岡市朝日庁舎4階 大会議室
- 出席委員: 敬称略・五十音順
安達幸恵、五十嵐大輔、井上時夫、上野博喜、小野寺一郎、工藤悦夫、今野継子、
齋藤源之助、佐藤泉三、佐藤正、佐藤照子、佐藤宥男、佐藤芳彌、松本壽太、宮崎康史、
渡部巖、渡部小枝
- 欠席委員: 敬称略・五十音順
大滝清策、難波一之、難波玉美、
- 市側出席職員
【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、産業課長、市民福祉課長、総務企画課主幹、
産業課主幹、南部税務事務室長、南部建設事務室長
総務企画課職員
【本所】企画部地域振興課地域振興専門員
- 1. 開 会 (進行 総務企画課 工藤総務地域振興主査)
- 2. あいさつ
佐藤芳彌会長
鈴木誠次朝日庁舎支所長
- 3. ワークショップ
 - 工藤総務地域振興主査
配布資料の説明
 - 石井総務企画課長
審議会全体の日程説明
 - 土田総務地域振興専門員
ワークショップの進め方の説明
- ～サブテーマごと、3作業班に分かれてワークショップ～
- 4. 協 議 (議長 佐藤芳彌会長)
 - (1) 地域審議会協議テーマについて

○ 佐藤芳彌会長

それぞれの作業班に分かれてのワークショップ、大変ご苦勞様でした。各班のまとめ役の方からその状況を発表していただきたい。

最初にサブテーマ①の「集落自治機能を維持し、コミュニティを護る」、佐藤正委員。

できるだけ簡潔に、3分から5分ぐらいでお願いしたい。

○ 佐藤正委員

問題点カードの分類・整理作業を昨年12月18日に行ない、70項目ほどの課題についてブレインストーミングにより、「支所機能の低下」あるいは「高負担」など13の項目に分類・整理した。ただ、三つのサブテーマにきちんと分類するのが難しいような項目もあり、審議会で相談してもよいと思うので、ご承知おきいただきたい。

解決策の整理では、それぞれ13の問題点の分類ごとに解決策を貼り出した。ひとつ、鉛筆書きのままにした「農業の衰退」については、サブテーマ②とかなり共通するので、そちらに譲ったほうがいいのではないかとした。

解決策として直ちに対応可能なものは「中間まとめ」に含めてはどうかということで整理した。協議テーマについては25年度、引き続き検討するわけなので、それ以外の意見はそちらに先送りをするということにした。

「空き家対策」については、昨年12月に市の条例化が可決され、4月から施行されることになっている。何点か解決策が出ていたが、その状況を見ようということで整理した。

「家族構成の変化」の問題は、なかなかいい解決案がないので保留とした。

「公共交通」については、いろいろ出されているが、例えば路線バスの廃止に備えたデマンド型タクシーの検討や福祉の移送サービスの拡充なども出されているので、公共交通を維持していこうということにした。

「高負担」の問題では、行政コストの大幅な引き下げ、それから民間委託、住民負担の軽減とか高校生の通学助成という意見もあった。

それから「支所機能の低下」、私はこれがいちばん大きいと思っているが、支所長あるいは庁舎の決定権の強化など、この中には地区担当職員の配置みたいな項目もあった。

「就業の場の不足」ということで、ここには「確保」としたが、朝日らしい仕事の創出ということで、具体的には大変難しいわけだが、今の時期で言えば除雪の人手不足にどう対応するかということとは可能かと思う。

それから、「集落維持機能の復活」が何点かあるが、特に朝日のような地域では格安な住宅団地の造成などは、若い人にかなり魅力があるのではないか。

「集落コミュニティの活性化」だが、若者人口が増加しているような先進地を視察したらどうか、大学生のワークショップで解決策を探ってもらう、集落の合併などの意見があった。公民館あるいは寺・神社等の雪下ろしの業者委託にも助成対象にしたらどうかという意見もあった。

集落自治会の後継者不足では、先ほどの集落維持機能の復活などとも関連すると思うが、多くの人に役職を経験してもらおうという意見については両論あると思うので、この場では保留にしたい。

「少子化対策の強化」ということで、婚活あるいは子ども手当、女性労働者の支援などの意見があった。

「文化の継承」については、伝統工芸で地域のPR、もちろん販売にもつなげていかなければならないと思う。

「雪対策」、これがいちばん多くあったが、公民館あるいは寺・神社等の雪下ろしを若い人にお願いしたいがないということ、除雪パートナーズ事業は2年目で燃料代の補助をしてほしいという意見もあったが、それよりも先に維持費の予算化のほうが大事ではないかと思う。それから、すべて落雪屋根にしようとか、克雪住宅の普及のために補助率の改善なども必要なのではないかと思う。

○ 佐藤芳彌会長

ありがとうございます。他の委員から意見、質問があると思うが、三つの作業班の報告が終わったあとに受けたい。

次はサブテーマ②の「中山間地域の特色を産業に活かす」、松本壽太委員、お願いします。

○ 松本壽太委員

「中山間地域の特色を産業に活かす」というサブテーマについて、問題点に対するの解決策というのを区分けして貼り付けてみたが、産業だけのことを考えても解決はできないのではないかと感じた。

幸い「中間まとめ」であり結論ではないので、“臥すこと長きは飛ぶこと高し”と、来年の発表までにきちんとしたものを作り上げれば、住み続けることのできる地域づくりに自信が持ててくるのではないかと思うが、非常に難しい問題で、ここで話し合いして作業したから解決するのだということではないような気がする。

目の前のことから離れて大変申し訳ないが、新聞の論説で伊勢神宮の話を紹介したい。

伊勢神宮は20年に一度、社殿を新しく建て替えてご神体を移す。飛鳥時代の持統天皇の世から千三百年以上続く決まりごとで、今年はその式年遷宮の年にあたり、建物だけでなく装備や宝物なども新調するそうだ。しかし、そうした神道の精神だけが式年遷宮の理由ではなく、伝統の裏側に経済的な意味が隠されている。建築や製品の技術を次の世代に伝えていく制度としての側面、20年の歳月が経てば、10代の見習いだった職人が30代の棟梁となり、30代の棟梁は50代の後見人になっている。習った技を若者に教え、育った人材を背中から見守る、大きな仕事に生涯で二度携われれば技術は面々と引き継がれていく。20年周期で開くタイムカプセルに守られて、古代が現代につながっている。ギリシャ神殿は二千年以上も建ち続けるが、同じ建築を造れる人はもういない。

この地域に当てはめて考えるとどうだろう。20年の差がある世代と一緒に汗をかき、伝え学ぶ機会はあるだろうか。気がつけば年配者ばかりの職場では、築いてきた価値の伝承は途切れてしまう。未来へつなぐ社会であればいい、というようなことが書いてあった。まさに後継者がいない、いないというのは、いなくなるような教育なり土壌なり社会構造であるということが最大の原因で、こうすれば後継者がどんどん出てくるものではないという気がして、いまさらだが、やるべきことはがんばらなければならないということが言えるのではないか。

○ 佐藤芳彌会長

未来につなぐということで、伊勢神宮を例えにしてまとめていただいた。

では、サブテーマ③の「いきいきと輝く“ひと”と地域を創る」、渡部巖委員。

○ 渡部巖委員

新たな意見もあるかも知れないが、提出されたものを中心にしてまとめた。

「いきいきと輝く“ひと”を創る」ことについては、精神的な要素、教育的な要素、いわゆる人づくりの要素が多分に入っているわけだが、まずいちばん最初に、なにごとにも人づくりだと思う。

教育も人なり、企業も人なりと、常に人づくりのことはいろんな場面で叫ばれているが、いざ予算となると、いちばん最初に削られる宿命を持っているのが教育予算、人づくりだ。

芸術や文化そのものは、一人ひとりの生きがいであると同時に、人生そのものであると思う。いきいきと人が輝くためには、どういう地域をつくれればいいのかということで、意見を出してもらい集約した。

まずひとつ、根底となるものを考えるときに、人がいきいきと光り輝く地域を創るためには、なんといっても暮らしが立たなければ考えることもできないし、地域づくりに関わる時間がないので、まず経済、暮らしを立て直すということが出された。そのためには地域産業を生かすとか、あるいは販売戦略などがあるわけだが、まず挙げられたのは、若い人が働けるような企業の誘致とか、そういう働き場をつくるということだ。

そして、郷土の自然、資源を生かすには、やはり目先の収入だけにとらわれなくて、文化とつながるような雇用の開発も必要なのではないかということ、あるいは森林資源を生かしたペレット、木材を生かした産業を興していくことなど、いずれにしてもちゃんとした経済があつて初めて、その次の課題が解決されていくと集約された。

経済がある程度、成り立てば、次に郷土愛を育てていくことが必要。伝統文化や郷土料理などを大事にしながら、世代間がお互いに交流を持って将来を語り合うようなことをやっていく。いわゆる自然の体験なども含めて、小さい頃から朝日のイベントなどにも関わってもらうような仕組みづくりをしていこう。それが郷土愛の醸成の根幹だ。

それから、「資源の活用」ということでは、グリーンエネルギーの活用とそのため勉強会、鶴岡市は食文化が盛んなので食のあり方、伝統食あるいは地域で使える商品券の発行、あるいは産直グーの加工場をもっと多くの人に開放して勉強会や販売促進に取り組むべきだというようなこと。それから、農家民宿等々が出された。

あるいはもっと大きく、“官”と“民”と、それから“学”との連携が今、さかんに叫ばれているが、県内の大学、各専門学校との連携やワークショップなども必要であり、そういうものを地域資源としてこれからのことを考えていくべきである。

「公共施設、生涯学習の場」では、公民館体制を8館体制に戻すといった意見、それから利用料を一律化するのではなく緩和措置が必要だということが出された。

また、小学校の統合による廃校後の利用の仕方として、デイサービスだとか観光案内所、カフェなどに使ってほしいという意見もあった。

「社会教育、公民館事業の推進」では、生涯学習の場というものを公共施設とセットで考えてほしいということ。それから人材不足では、地域課題として、地域が散在していることから自治会長だけではいろいろ大変だということ。あるいは老人クラブの人たちとの意見交換をしながら、また、若い人たちを地域活動や自治活動にどのような形で生かしていくかということも大事だ。あるいはU J Iターンも必要だし、全市的な有識者の活用なども必要。それから食の問題として食改の活動、地域の労働力の不足に対応する人材の確保なども出された。

「少子化対策」としては、補助金より助け合いで子育て支援をするという前向きな意見もたくさん出ている。地域行事としていろんな子育てのことを考えていき、高齢者も活用していくことや、行政支援による婚活の場の開催なども出された。

「イベント」の関係では、現在あるイベントの見直しなどをしながら、成果に結びつかないイベントは出費を最小限に抑えることも必要ではないかということも出された。さらには最近、行政の支援も停滞しているのではないかという意見もたくさん出ている。

特に感じられたことは、ひとつは市街地と山間部では根本的に違うことを、市民と行政がしっかりと理解するという意見、これは私も重要だと捉えた。

それから、「すまいる」の利用者減は合併による料金等の一律化が第一の原因」とする意見については、旧町村の料金等を考慮することや緩和措置をしながら、生涯学習を活発にするために地域にもっと開放された公共施設であってほしいというようなことや、公民館職員の充実なども話題としてあがった。もっと違う意見も多くあると思うが、今日の限られた時間の中では、そこまでは踏み込めなかった。

○ 佐藤芳彌会長

ありがとうございました。いきいきと輝くひとをつくるということで、木に例えていろいろ、根が大事で、そこから枝葉が伸びるということで説明をいただいた。

三つの作業班への質問、意見を受けたい。

(特に委員から発言なし)

○ 佐藤芳彌会長

三つの作業班の説明を聞きながら、住み続けるこの朝日地域をつくるためには、三つの部分、一つ一つの取り組みでは解決できないと思うし、三つが有機的に連携し、つながり合って初めて住み続けられるこの朝日地域ができていくのではないかと思った。

そういう意味で、今日話し合ったことを、これから考える一つの基礎として、また次の会にいろんな方向性がしっかりとできるように取り組みをよろしくお願ひしたい。

質問がなければ次に進みたい。

「中間まとめ」の報告期限が迫っているのので、事務局案について説明してもらい、委員から質問、意見をいただきたい。

○ 石井総務企画課長

平成24年度朝日地域審議会中間まとめ(案)の説明

○ 佐藤芳彌会長

事務局から「中間まとめ」として、各委員の主な意見、そして今後の議論の方向性ということで、おおまかな説明をいただいた。中間報告に付け加えてほしいとか、そういう意味での意見、質問があればお願ひしたい。

○ 渡部巖委員

この「中間まとめ」のほかに前文のようなものはあるのか。これだけなのか。

○ 石井総務企画課長

前文については特に考えていない。市長、副市長、部長級で構成する地域振興対策会議に、各地域審

議会の今年度の取り組みについて支所長が報告するもので、各庁舎この様式で統一して説明することになっている。

○ 渡部巖委員

それでは支所長から報告の段階で、朝日の現状について私なりに思ったこと、ぜひそのことを付け加えていただければありがたい。

合併してから8年になり、非常に効率的な行政の運営であるかも知れないが、物事を統一して、市内を標準化していこうという基本的な考えがあるようだ。それについて反対するものではないが、もしこのことが、選択されないでどんどん進むのであれば、むしろ過疎に拍車をかけると思う。

これが、朝日を守るという意味で行政にとっていいのかどうか。私たちは公助、あるいは扶助、自助の精神を持ち、十分それを理解しながらも、山間地特有の条件である働き場の不足、働き場が遠かったり、あるいは地域が非常に散在しており広いこと、雪も含めて自然の厳しさがあるということを考えると、自分の手ではどうにもならない、行政の支援なくしてはできないものがたくさんある。そういう点では何もかも一律にすること、標準化することは、私は地域振興に、特に過疎の地域の振興にはつながらないと思うので、私はそのことをぜひ、付け加えていただきたい。

もう1点は、施設整備だけが行政サービスではなく、人が市民にどう接するかということも行政サービスの大きな一つであると思う。例えば生涯学習の場である施設についても、掛け時計も止まっているとか、玄関などのタイルもみな剥げっぱなしだとか、そういうことは姿勢として、いわゆる心構えとして、やっぱり人を迎えることとして、そういう心遣いも大きな行政サービスだと思う。先ほど精神ということも非常に大きく、地域に住む精神、心構えということも議論されているので、そういう意味ではやはりハードだけでなくソフト面も大事にしてほしいということをぜひ、申し上げていただきたい。

みなさんもいろいろ意見があると思うので、ぜひ意見を聞いていただいて、差し支えのない範囲で支所長から付け加えていただければありがたい。

○ 佐藤正委員

渡部委員に同感だ。

それとは別に、サブテーマ①の中で、委員の意見はほとんど網羅されていると思うが、いわゆる支所機能がどんどん低下しているのではないかという部分が、全くふれられていないので大変、疑問に感じている。

今も申し訳程度の単独予算があるとなっているが、そういう問題でなくて、本庁に伺いしないと何にもできないという状態では、とても地域の発展などは望めないと思っている。それについて支所長から答弁をいただきたい。

もう一つ、サブテーマ②の6、施設に関する課題でパッケージセンターとあるが、センターなどと言った特に立派な大それた話ではなくて、そういう機能を持ったコーナーと言えいいか、スペースと言えいいか、その程度のものを取りあえず考えている。

実際、私は農家でインショップを中心にしているが、たまには同じ集落、あるいは同じ地区あたりからモノを調達して小分けして販売、納品するようなことも実際やっているもので、いきなり大風呂敷を広げてパッケージセンターのような立派なものでもなくても、そういう機能を始めていけば、山菜、キノコ、農産物だけでなく、先ほど出てきた伝統工芸の販売先とか、そういうことが十分可能なので、ぜひ試験的にでもよいので取り組んでいただきたいということを、提案者として補完しておきたい。

○ 佐藤芳彌会長

ありがとうございました。今、いろいろ支所長に質問があったが、ほかに意見があったらまとめて答えてもらうので、そのほか、このことはぜひ、その場で言ってほしいということがあったらお願いしたい。

○ 五十嵐大輔委員

今日、たまたま自分が黒文字のカンジキを作ったイベントの新聞記事をここに付けてもらったからというわけではないが、そこで感じたことがあった。

多層民家（旧遠藤家住宅）でイベントをさせてもらったが、管理をしている渋谷さんと、カンジキ作り指導をした遠藤さんの二人がいなければこのイベントは成り立たなかったわけだが、二人とも今の時期は除雪の作業に出ている。そうすると、カンジキ作りをしたくても大雪が降ると二人とももしかしたら出られないと言われていて、たまたま天気がよかったからイベントができたが、せっかく伝統文化を活用してイベントをしようと思っても、仕事があつてやりたいこともできない状況もあることにちょっと憤りを感じた。

田麦俣の人たちが何で生計を立てているかを考えれば、除雪の作業を休んでくれとは言えないので、一応その分に相当する額を支払うとは言ってはいるが、除雪は簡単に休めるものでもないので、教える人の立場になる年配の方々、いろんなプロの方々をもっと動きやすい環境をつくってもらわないと、いざ自分がイベントするときも成り立たなくなってしまう可能性がある。

この「中間まとめ」で感じたのは、小中高大学生に関して、どうすればこの朝日にもっと住みたくなるのかということが全く書かれていないので、もっと十代、二十代の子どもたちが、もっと朝日を好きになるようにするにはどんな取り組みをしたらいいのか考えてほしいし、もっとそういうことに取り組んでももらわないと、それこそ次の10年後、20年後に先生になる人がまたいなくなるとか、学ぶべき人がいなくなってしまう。

また、地域審議会を子どもに見せて、「あー、大人がこういうこと、しているんだな」と感じてもらいたいし、まず子どもがいないと始まらないということは今日のワークショップでも話をした。結局、仕事がなければ住みつくこともできないし、仕事がなければ子どもも増えないということはあるが、いちばんは子どもを優先してほしい。

再来年度、芸工大にコミュニティデザイン学科が開設するが、自分たちの友人の中ではすごく大きな問題として取り上げられていて、中心となる山崎亮さんという人が、コミュニティデザインでテレビなどでも取り上げられているが、生活とか地域づくりとか全般をデザインして行って、シンプルにつくっていくという学科のようだ。

酒田の公益大でも今、それに近いこともやっているのですが、大学生のフィールドワークで朝日のまちづくりを舞台にさせてもらえるように誘致すれば、学生たちが朝日の中を駆け巡って、地域審議会できみ上げられないような細かいことをくみ上げてくれたりすることも起こるので、そういうのももっと取り入れてほしい。

まちおこしには、よそ者、ばか者、若者が必要と言うが、よそ者とは単純にIターン、Jターン、Uターン者のこと。ばか者は、ちょっと変な人がどこの地域でもいて、そういう人が地域を盛り上げること。若者は芸工大とか公益大とか山大農学部でもよいが、高校生、中学生などをもっと引き上げて、い

ろんな活動をさせてあげることが、本当に朝日を好きになるきっかけになると思うので、子どもをもっと朝日の中でどう組み入れていくかを考えてほしいということをお願いしたい。

○ 佐藤芳彌会長

ほかになれば、4、5点、質問があったので、まとめて支所長のほうからお答えいただきたい。

○ 鈴木誠次支所長

時間のなかで、大変貴重なご意見、そして核心を突いた意見をいただき、ありがとうございます。

ただ今、3名の方から意見あったことについて、的確な答弁になるかどうか分からないが、自分なりに考えていることをお話申し上げたい。

まず、渡部厳委員から合併後、おしなべて全部、行政の手法が統一化されたとのことのお話があった。これについては昨年の審議会でも帯刀委員から、金太郎飴みたいはどこを切っても同じようなやり方だと言われたが、例えば税金等は法律で決まっているので、災害だとかいろいろ特例はあるにしろ、特定の地域を安くすることはできない。負担金等、料金に関するものは、これはある程度、統一化を図っていかなければならないという考え方のようだ。

ただ、そのほかのいろんな行政のやり方について、例えば自分でも感じるのは、行財政改革推進委員会を20数回開催しており、すでに実施されているものもあるが、中には予定の年度までできていないものが確か13項目あり、この中に朝日に関するものが結構ある。行財政改革とは言うまでもなく、とにかく人手を減らして、それから効率化、費用対効果が上がらないものは見直ししていこうというものだが、その中で朝日の俎上にあがっている施設について、地域の住民からもなくさないでくれと要望されているものがあつた。

行革委員会で会長から発言を求められて実態を報告したことがあるが、とにかく朝日に関するこういった事業については、人口の少ない中で、費用対効果で物事・事業を判断しても、黒字になるものは何一つないと。そこは活性化だとか、地域の雇用だとか、そういったことが主眼でこの事業を導入したのだということを委員会の場でも話をさせてもらった。ちょっと反対勢力みたいに思われたかも知れないが、朝日はそういった事情もあるんですよということで、疎ましく思われるかも知れないが、特に過疎化とか地域の活性化の部分ではこれからもそういった主張はしていこうと思っている。

それから、ハードだけでなくソフト面の部分についても充実していくべきだということで、例として玄関の話があつたが、これについては全く弁解の余地はないと思っている。それから“すまいる”の和室の障子のことも誰かに言われたことがあるが、大した経費が掛かることでもないのに、このへんについてはやはり職員自ら点検をしながら、気をつけていきたいと思っているし、また、みなさんからも気づいたことがあれば、ご指摘いただければありがたいと思う。

支所機能では、決裁区分として庁舎で判断してよいとする区分もあるわけだが、佐藤正委員の意見は、いわゆる予算の問題ではないと思うので、私も漠然としたイメージはあるが、具体的にこの部分といったことがあれば、なおこれからも参考にさせていただきたいので、例えば困った事例など具体的に提言いただければありがたい。

今日の資料の中にも、庁舎の決定権、市の中での支所のあり方、各支所の連携などの意見があるが、改善を本所に提言するときに、もう少し具体的にあればよいと考えているので、気づいた点があれば提言いただきたい。

それと、パッケージや加工の件では、確かに今、6次産業化ということで加工とか販売も含めて農業

を進めていこうという動きがある中で、特にこの地域のいちばんの特産である山菜については5月、6月あたりに一度に出てなま物はなくなるので、何とか加工の施設がほしいということでは考えている。どんな制度があるのか、国・県、あるいは財団などの補助制度について調べてみるので、少し時間を貸してもらいたい。

それから最後、五十嵐大輔委員からは、さまざまあったので、ちょっと私も明確にお答えできないが、要は若い人が、自分たちが将来的に朝日に住むようにするためにはどうすればよいのかというところをもっと考えていくべきではないかと理解した。五十嵐委員には以前の審議会するときにも、子どもたちに審議会の様子を見てもらうといった話もあり、機会があれば審議会を傍聴することもよいと思うが、子どもたちの考えを聞く、ふるさとについての考え方を聞くような課外授業のような場を設けてもらうのもまた、いいのではないかと前から考えていた。なかなか学校のほうと具体的に話をする機会がなくて、まだ私の頭の中だけに止まっているが、ぜひ社会科の中の授業の一環みたいな格好で、そういったふるさとの将来など、子どもたちの考え方も聞いてみたいなという感じはしている。

いずれにしても、みなさん方から大変、重い課題をいただき、どの程度、私のこの表現力で市長のほうに伝えることができるのか、ちょっと不安な部分もあるが、思いは十分、分かりますので、市長のほうにぜひ、話をしてみたい。

○ 佐藤芳彌会長

はい、ありがとうございます。あと全体通して何かこれだけはという意見があればお願いしたい。

いただいた意見について、事務局で報告書に反映させてほしいし、支所長のほうからは委員の思いをぜひ、その場で伝えていただきたい。

5. その他（特になし）

6. 閉 会

○ 佐藤照子副会長